

♪ 2021年度 *poco a poco* ♪

Nr. 14

2021年10月10日(日)

文責:プファイル・辰巳

学校祭 お疲れさまでした!

2年ぶりの学校祭が無事終わりました。昨日の舞台発表から本日の父母の会のみなさまによるバザーまで、とても楽しい二日間でした。

舞台発表では、それぞれの学年で学習し、考えを練り、発表の仕方を工夫した見応えのある発表ばかりでした。短い準備期間の間に準備し、練習をしてきた子どもたちに大拍手です。

そして今日のバザー。ワクワク顔の子どもたちが、眼をキラキラさせてお買い物を楽しんでいました。ご準備くださった父母の会のみなさまに、感謝いたします。お疲れさまでした。

さあ、秋休みです! 元気に楽しく過ごしてください。

音楽こぼれ話 < ショパン国際ピアノコンクール >

日本でも何かと話題になることの多いショパン国際ピアノコンクールは、現存する国際音楽コンクールとしては世界最古とされています。第1次世界大戦後、ポーランドが一国家として独立、数年を経て1927年に首都ワルシャワで第1回大会が開かれました。ポーランドを代表する作曲家で、ピアノの詩人と呼ばれたフレデリック・ショパンの名を冠したピアノ部門のみの国際コンクールです。課題曲も全てショパンの作品とされています。第1回大会から原則5年ごとに開催されており、第2次世界大戦を経て、2020年に第18回を迎える予定でした。

ところが新型コロナウイルスの影響で延期となり、今年10月2日からようやく現地予選が始まりました。毎回ショパンの命日である10月17日前後に本選入賞者が決定することになっています。国際的な音楽コンクールの最高峰の一つとされており、

ロシアのチャイコフスキー国際音楽コンクール、ベルギーのエリザベート王妃国際音楽コンクールと並んで、世界3大コンクールとも呼ばれています。正に若手ピアニストたちの登竜門ですね。有名なM. ポリーニ、M. アルゲリッチ、中村絃子、内田光子、C. ツィメルマン、ダン・タイ・ソンなどは、みんなショパンコンクールの入賞者です。

第11回大会(1985年)でスタニスラフ・ブーニンが第1位に入賞したときは、日本では「ブーニン現象」と呼ばれるほど、このコンクールが話題になりました。同大会では日本人ピアニストの小山実稚恵さんも第4位に入賞しています。

コンクールで使用されるピアノは公式に採用されたものに限られており、現在はスタインウェイ、ヤマハ、カワイ、ファツィオリの4メーカーとされています。以前は採用されていたベーゼンドルファーのピアノは21世紀から使用されていません。それに対して日本の楽器メーカーが2社も採用されているとは、ちょっと驚きですね。最近採用され始めたファツィオリはイタリアのメーカーです。

さて今年の第18回ショパン国際ピアノコンクール、現地での第1次予選に参加したピアニスト87人のうち14人が日本人ピアニストでした。そのうち第1次予選を通過した日本人は8人。日本国内での予備予選の間から「角野隼斗さん」「反田恭平さん」「牛田智大さん」など話題の若手ピアニストが注目を集めていましたが、お三人共に第1次予選通過です。この後第2次予選、第3次予選、そして本選まで道のりは長いですが、日本人ピアニストたちの活躍が楽しみです。



ちょっとだけ 演奏会情報

11月 2日(火) アルテオーパー・大ホールにて
20時から ベルリンフィルハーモニーの演奏
K. ペトレスコの指揮
シューベルトの交響曲第8番、ヒンデミットの作品 ほか

11月 9日(火) アルテオーパー・大ホールにて
20時から ロシア ナショナルオーケストラの演奏
クリスティアン・ジャルヴィの指揮
サン・サーンスのピアノ協奏曲第2番ほか